

54秒にすべてをかける

土山寿美

「今までやったすべてを出し切る思いで臨みました」



2番員

1番員



後藤理恵

「みんなの思いを背負って、臨みました」

川野裕佳子

「操法は指揮者次第。いつも以上に気合を入れて臨みました」



指揮者

福岡県女性消防 操法大会

9月8日 福岡県消防学校(福津市)



小郡市消防団 女性消防隊

火災現場を想定して行う軽可搬ポンプ操法。大会では、ポンプからホースをつなぎ、放水し、火点を倒すまでのタイムと正確な動作や士気が競われる。この大会に、小郡市消防団の女性団員で構成される小郡市女性消防隊が出場することになった。

「やるからには絶対優勝」を合言葉に、5月22日から三井消防署で訓練を開始した。選手は、男性消防団のポンプ操法大会で操法を披露したメンバーもいて、上位入賞が期待されていた。

多くの女性のチカラが
消防団で輝いています

消防団と聞くと男性の消防団員が火災現場で消火活動をしているイメージを持つ人が多いと思いますが、女性消防団員の数は年々増加しており、全国で17,000人が活躍しています。

今回の大会で隊長を務めた小郡市女性消防団の中島智子分団長に女性消防団の活動などについて伺いました。



A Q 女性消防団は何人いるの？
平成25年4月1日現在で、14人の女性消防団が活躍しています。

A Q 普段はどんな活動を？

普段は防火啓発活動や地域住民への応急手当指導を行います。なお、基本的に、火災現場での消火活動には従事していません。

仕事や家庭などもありますので、みんなで分担して、無理がかけられないように活動を行っています。



補充員

澁田純子

「ここまで来たら、やるっきゃないと自分のすべてを出し切りました」

3番員

坂下恵美子

「みんなで勝ちたいという思いでがんばりました」

4番員

門司直美

「みんなでナンバー1になると信じて臨みました」

本格的な訓練が始まり、選手たちは、仕事や家庭と両立しながらの厳しい訓練を行い、大会までの約4か月間はあつという間に過ぎていった。その中で、選手が訓練に集中できるようにと大勢の団員がサポートをした。また、毎夜、8時から始まる訓練に温かく送り出してくれた家族。多くの支援が選手たちの支えとなった。

そして迎えた大会当日。「いつもの力を出せば優勝できる」今まで自分たちを支えてくれた仲間の期待に応えるため小郡市消防団の名誉をかけて一発勝負に臨んだ。



一致団結して臨んだ小郡市女性消防隊。惜しくも、出場12チーム中、3位入賞を果たすことはできなかった。・・・

操法後、選手全員が口にしたのは「感謝」の言葉だった。サポートしてくれた消防団員。自分たちを何度も指導してくれた消防署の指導員。そして、温かく見守ってくれた家族に。選手たちは、みんなの支えに應えるために、ひたすら優勝を目指した。

優勝はできなかったけれども、この大会を通じて、操法の技術の向上はもちろんのこと、小郡市消防団の団結という大切なものを得ることができた。

この団結は、地域防災の担い手である消防団の活動に受け継がれるだろう。

A



入団するにはどうしたらいいの？

地域の消防団員または協働推進課防災安全係(☎72・2111内線253)にお問い合わせください。入団は女性消防団の活動を理解していただいてからの入団になりますので、問合せⅡ入団というわけではありません。女性消防団に興味がある人、地域貢献したい人の入団をお待ちしています。

